

アジア研究会 7 月例会

2023 年 7 月 26 日 (水) 13:30~16:00

場所： 中央公民館 8,9 号室

「玉上代表より 7 月 19 日付けのご案内メール」

先月の定例会の続きとして、福田会員による以下の問題提起に関して 報告と意見交換を予定しています。

テーマ：日本の防衛力 -対話による外交交渉は可能か -女性活躍社会 など

注) 主な出典 (特記なき限り、ウィキペディア Wikipedia による)

1 日本の防衛力 (防衛力は必要か)

「非武装中立」：国家や集団などの安全保障の考え方の一つであり、自衛を含めた軍備を放棄した中立主義を行うことである。

軍備の有無にかかわらず国家の自衛権自体は国際法上存在しているため、侵攻を受けた以後に民兵や義勇軍を組織することも考えられる。ただし、急造の武装組織の近代戦での有効性は疑問であり、日本国憲法においても何ら規定されておらず、捕虜などの戦時国際法上の保護も課題となる。

「永世中立国」：永世中立 (仏: La neutralité permanente) とは、国際条約または自国の宣言によって、将来のすべての戦争の交戦国に対して中立であることを義務づけられている立場を取る国家のことを指す。永世中立国の最も代表的な例として、スイスが挙げられる。戦争における中立の概念は狭く定義されており、中立を保つという国際的に認められた権利の見返りとして、中立の当事者に特定の制約を課している。

スイス (武装中立) では憲法に軍隊保持と国民皆兵制を規定 (58 条、89 条) しており、2013 年に市民運動団体によるスイス軍軍隊廃止に関する国民投票が実施された際も 73% の圧倒的多数で否決され、徴兵制の存続が決まった。

スウェーデン・フィンランドは中立政策を事実上放棄し、5 月 12 日に北大西洋条約機構への加盟申請を行った。永世中立国であったスイスも対ロシアへの経済制裁に参加し、ロシアによる「非友好国リスト」に掲載された。

- ・戦争は無くならない ~ いかにして生き延びるか? 次世代に良い形で継承していく、歴史を継続
- ・台湾有事 「中国による武力行使・統一」への対応
- ・ウクライナ支援 「ロシアによる侵攻」へどこまでの対応するのか?

「防衛装備移転三原則」の運用指針を改正し、自衛隊が保有する防弾チョッキやヘルメット、それに化学兵器に対応した防護マスクや防護服など、自衛隊の装備品を提供。ウクライナで地雷や不発弾の除去を進めるため、地雷探知機 4 台を供与する予定。

(<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230224/k10013989571000.html>)

- ・必要であるとしたら、どのような防衛力・防衛体制が必要か?

軍備拡大 (陸・海・空・宇宙) ~ 相手より優位に立つ (能力、技術、装備、備蓄)

第二次世界大戦後、日本は米国と「日米安全保障条約 1960」を締結・運用。

安保条約を破棄できるのか?

自衛隊単独での自国領土防衛・国民の安全確保は可能か?

- ・核攻撃の脅しに対し、通常兵器のみで核攻撃の脅威に対応できるのか？ cf. ロシア・ウクライナ戦争の事例
外交交渉（政治・経済・食糧・科学技術・文化ほか）のみで戦争・紛争が解決するか？
- ・核の抑止力を認めるのか？
- ・日本の核武装が必要か？

2 対話による外交交渉は可能か（外交交渉は話し合いで解決できるか）

「外務大臣談話」(20220610)：

1. 日本は、国連総会において、安全保障理事会（安保理）非常任理事国に選出され、2023年1月1日から2年間の任期を務めることとなりました。1956年の国連加盟以来12回目の安保理入りであり、国連加盟国中最多となります。
2. 安保理は、国際の平和と安全の維持に関する主要な責任を負っており、日本としてこれを重視しています。しかしながら、常任理事国であるロシアのウクライナ侵略や、安保理決議への違反を繰り返し、我が国、地域、国際社会の平和と安全を脅かす北朝鮮の核・ミサイル活動に対し、安保理は有効に機能できていない現状にあり、試練の時とも言えます。

- ・宗教、法律、歴史解釈などの相違を克服できるのか？
- ・話し合いを積み重ねる中で、どこまで譲歩するのか？ 譲歩できないものは？
- ・話し合いのみで解決（恒久的に）した事例はあったか？
- ・国際的な取り決め・合意事項は継続したか？
- ・福島原発処理水問題

3 女性活躍社会の問題

- ・ジェンダー・ギャップ指数（GGI）2022年
教育（1.00）、健康（0.973）、経済参画（0.564）、政治参画（0.061）
- ・女性活躍・男女共同参画の現状と課題
- ・女性の政治参画マップ2022
- ・政府“2030年までに女性役員30%以上”男女共同参画で方針案
- ・女性活躍・男女共同参画の重点方針2023（女性版骨太の方針2023）概要
- ・「LGBT」から「LGBTQIA+」へ、言葉が長くなってきた理由
多様な性自認への認識が広がるにつれ、頭文字の数も増加